

土木交通委員会(7月2日) 田口一登委員長・藤井ひろき議員

多すぎる
大きすぎる

街路樹の再生指針(案)を発表

選定回数削減など維持管理費の削減を中心に

7月2日の土木交通委員会で、街路樹再生指針(案)について説明がありました。

10万本を超える高木の管理

名古屋市の街路樹は、都市の基盤整備とともに本格的に進められ、高木は2014年4月現在約10万4千本、市域における街路樹密度において、大都市のトップクラスとなっています。

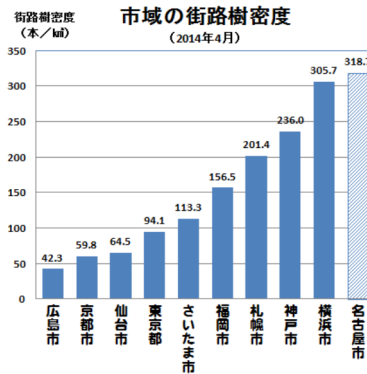
大木化や老朽化、生育環境の悪化も進み、多くの課題を抱えており、街路樹が持つさまざまな機能や役割を十分に発揮できるように、適正な管理を進めるため、2013年3月に名古屋市緑の審議会へ諮問し、2014年7月に答申を得て、今年2月までに10数回の庁内検討会を経て「指針(案)」を策定した、と説明がありました。

「量」から「質」の向上へ

対象とする街路樹は、高木(高さ3m以上)を対象とし、大木化や老朽化に伴う倒木や枯れ枝の落下、根上がりによる事故リスクの増大、市街地の高密度化による生育環境の悪化、限られた予算による維持管理手法や工夫の限界を踏まえ「量の拡大」から「質の向上」で対応するとして以下の方針を示しました。

- ①計画的な更新・撤去による街路樹再生：事故の危険性がある街路樹等を更新・撤去。地域と連携し勢定頻度の少ない樹種へ更新。
- ②樹高抑制・間伐と車定管理による樹形再生：大高木の樹高抑制や間伐。適切な頻度で定期的な勢定。
- ③名古屋の顔となるシンボル並木の形成：市民や事業者の多様な参画でまちづくりにいかす。

具体的な取り組み、撤去などの対象路線と事業化の



高木(3m以上)本数	104,045本
歩道植栽延長	481.5km
中央分離帯緑化延長	204.1km
市管理の道路延長	6279.3km
市域面積	326.43km ²
街路樹密度*	318.7本/km ²

*市域面積当り高木本数

優先順位は、老朽化や大木化等による課題が多い路線、生育環境に課題のある路線、歩道幅員や沿道状況に比べて大木化している路線、根上がりによる歩道の段差等、市民に著しい影響を与えている路線などを勘案してすすめ、路樹の更新・再生、不適合木の撤去などは地域の皆様と協議・連携しながら決めるとしています。

課題が多い主な樹種としてはアオギリ、ナンキンハゼ、エンジユ、プラタナスが例示されました。

予算減で剪定回数減らし、落ち葉増に

剪定は、以前は毎年行っていたものが1~3年ごとに減らされている実態です。藤井ひろき議員は、「地域を回っていると、根上がりや落ち葉、剪定などの問題で要望をよく言われる。具体的な対策はどうするのか」とただしました。当局は「剪定回数を減らすために成長の早い樹木から、はなみずき、さるすべり、やまぼうし、ひとつばたごなどに変えていく。剪定は皆さんの期待に応えきれていない。10万本のうち6万本が剪定対象とし、今は年間3万本を予定している」などと答えました。

